全国まちの駅連絡協議会　事務局　（平成 28 年度第 2 号　平成 29 年 4 月発行）

まちの駅ニュース

人と人の出会いと交流をサポートする
まちの情報発信基地

1. 第 6 回まちの駅オールとちぎ交流会を宇都宮市で開催

2 月 18 日（土）、宇都宮共和大学で「まちの駅ネットワーク宇都宮 オール栃木交流会」が開催されました。宇都宮市では、平成 28 年度から 12 のまちの駅でネットワークを組織したので、そのお披露目もかねての開催となりました。

「まちの駅」構想段階からの協力者である古池弘隆教授の挨拶の後、栃木県内の各まちの駅メンバーが近況報告を行いました。その後は「ワールドカフェ」。お茶請けには栃木ですので「イチゴ」をいただきながら、楽しく自由に意見交換。本業が厳しいという声が聞かれる中、「まちの駅全国大会をオール栃木で誘致しよう」という提案も出され、前向きな雰囲気が共有されました。会の進行を宇都宮共和大学の学生達が担ったことも、初々しさに溢れていました。

まちの駅オールとちぎ交流会も今回が 6 回目。一巡しましたので、次回は鹿沼市で開催する予定です。

2. 俳句 de あらかわ名所づくりの投句が都電に掲載

東京都荒川区は、芭蕉の奥の細道の出発地として「俳句のまち　あらかわ」を PR しています。あらかわ区まちの駅ネットワークでは「俳句 de あらかわ名所づくり」を開催し、331 句もの投句を集めました。その中から、荒川区俳句連盟の佐々木忠利会長を選者に 56 句を選出しました。

その 56 句と「俳句 de あらかわ名所づくり」の紹介が、2 月の 1 カ月間、都電荒川線のラッピング都電の車内に掲載されました。そこで、2 月 25 日（土）、あらかわ区まちの駅ネットワークではラッピング都電を借り切り、車窓から荒川区内を眺めつつ俳句を詠む、「都電で俳句会」を実施しました。

小林清三郎ネットワーク代表からは、「1000 句を目指して今後も続けていこう」という元気な挨拶がありました。

3. 10 周年!!「まちの駅＆どまいち　春の物産フェア」を開催

ネットワーク結成 10 周年を迎える「まちの駅ネットワークみつけ」では、3 月 12 日（日）、見附市の「まちの駅ネーブルみつけ」を会場に「まちの駅＆どまいち　春の物産フェア」を開催しました。当日は、市内外からの多くの来場者で賑わい、イベント全体で来場者約 4,000 人と、例年の 1.5 倍以上の売上を計上しました。

見附市や長岡市から多くのまちの駅が店を連ね、毎年大好評の県外からは、東京都から「まちの駅青梅」、栃木県から「まちの駅　新・鹿沼宿」、福島県から「まちの駅ネットワークふくしま」「まちの駅ネットワーク伊達」「まちの駅野馬追通り銘醸館」よりブース出店がありました。また、委託販売では、北海道のまちの駅栗夢プラザの「くりやまコロッケ」、まちの駅ぽっぽ町田の「ゆきまろ」、黒部市水車の回るます寿しの駅の「ます寿司」、富山市あめの駅の「麦芽水あめ」、勝山市大仏前の駅の「羽二重くるみ」、静岡市桜えび直売ハラトウの駅の「釜揚げ桜えび」、防府市まちの駅うめてらすの「夏みかん丸漬け」、名護市ゴーヤーの駅の「海ぶどう」などが人気。

全国物産品販売コーナーでは、全国のまちの駅から仕入れた自慢の産品が並び、訪れた人は目当ての商品を次々と買い求めていました。全国特産品売り場では、まちの駅の枠を越え、被災地の復興支援として熊本県の産品を取り扱い、いずれも売上の一部は、被災地の復興支援金へ充てられました。

4. 新たに誕生した「まちの駅ネットワーク」を紹介します

①まちの駅ネットワーク加美

12 月 13 日、宮城県加美町（かみまち）と色麻町（しかまちょう）に 11 の「まちの駅」が誕生しました。加美町は平成 15 年 4 月に中新田町、小野田町、宮崎町の 3 町が合併し誕生した町で、宮城県の北西部に位置し、面積は約 461 ㎢と広く、西部、北部、南部は山岳、丘陵地であり、「薬莱山」は加美富士とも呼ばれるまちのシンボルとなっています。そして、町内には旧石器時代の遺物、縄文時代の遺跡が数多く存在しており、奈良・平安時代の役所跡とされる「城生柵跡」や「東山官衙遺跡」、江戸時代の侍屋敷「松本家住宅」など多くの史跡が遺されています。また、「中新田バッハホール」は国内有数の音響を誇る室内楽ホールで、多くの演奏家の支持を得ています。

色麻町は「かっぱのふるさと」をキャッチフレーズとする町です。歴史は古く、全長 56 メートルの前方後円墳や直径10メートル程の円墳が花川の両岸に500基を数える群集墳などの遺跡が数多く発見されています。「続日本紀」にも色麻についての記述がみられます。「おかっぱ様」と呼ばれる磯良神社は、延暦 22 年（803 年）に征夷大将軍であった坂上田村麻呂の勧請によって建てられたと伝えられています。

加美商工会では、全国展開支援事業・コミュニティービジネス創出事業 3 年計画の初年度で調査研究を実施、最終検討した結果、両町が連携して観光や物産の PR を推進し、地域活性化につなげるために「まちの駅」に取組むことになりました。昨年の全国フォーラム in TOKYO では、各地のまちの駅メンバーとも交流の輪を広げました。

②まちの駅ネットワークはつかいち

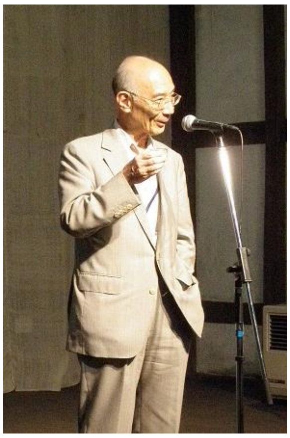
平成 29 年 3 月 1 日付けで、広島県廿日市市に 60 ヶ所のまちの駅が設置されました。

廿日市市は、平成の大合併によって旧廿日市市に佐伯町、吉和村、大野町、宮島町が編入され誕生しました。西中国山地は豊かな自然に恵まれています。漁業では瀬戸内海のカキ養殖が非常に盛んで、「地御前かき」「宮島かき」「大野瀬戸かき街道」は地域ブランドとして知名度を上げています。また大ぶりな「大野のアサリ」も人気があります。観光資源では、世界遺産の「厳島神社」を含む安芸の宮島は、国内外から多くの観光客を集めています。

大野町商工会では、廿日市市大野支所敷地の有効活用に伴う建て替えに当たり「道の駅」を併設する計画を立てましたが、場所が国道から十数メートル奥まっていることもあり、現状のままでは「道の駅」は出来ないという国交省の説明があり、「まちの駅」へと計画変更。東京の本部事務局にも何度か足を運んで相談したり、鹿沼市や荒川区など各地のまちの駅を視察して理解を深めました。さらに、地元でまちの駅説明会を開くなど、約 2 年かけて準備を進めました。

この度は 60 ヶ所からのスタートですが、まだ旧大野町の中だけの、なかば実験的な設置であり、これから廿日市市内全体に広げていきたいとのこと。大野町商工会の滝口義明会長は、「100 駅の鹿沼市を抜いて、まちの駅設置数日本一を目指したい」と意気盛んです。

5. 追悼　糠谷真平さん



長年、まちの駅連絡協議会の相談役や NPO 地域交流センター理事を務めていただいた糠谷真平さんが、平成 28 年 11 月 27 日、肺炎のために急逝されました。享年 75。

糠谷さんは経済企画庁事務次官まで勤められ、第五次国土総合計画の中で「地域連携軸」というキーワードを提示したり、まちの駅の立ち上げ時期においては「まちの駅推進準備委員会」の委員長を務めるなど、初期のまちの駅の考え方を指導いただいた方です。岩手県で開催した「第 15 回まちの駅全国フォーラム in 千厩」に参加され、交流会で乾杯の音頭を取っていただいたのが、まちの駅の出番としては最後でした。日本酒が大好きな方で、気仙沼にお気に入りの銘柄があるからと言って、もう一泊されたことが思い出されます。

1997 年 3 月 12 日付の日経新聞（夕刊）の掲載記事を紹介し、糠谷さんへの感謝と哀悼の意を表します。

連携センター ▶ まちの駅への期待

糠谷真平氏（まちの駅推進準備委員会委員長）

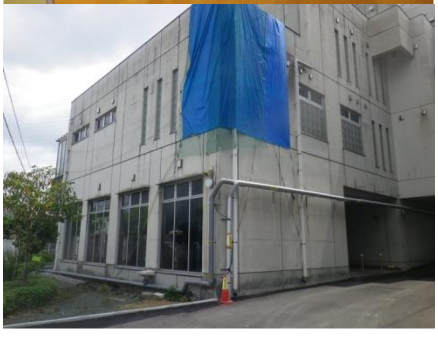
これまでの日本の地域づくりは、地域囲い込みが基本であった。高度高齢化社会、財政構造のひっ迫、増幅する環境問題などを目前にして、今後は地域の連携、官民の連携が不可欠になることが認識されてきた。旧来型の囲い込み型地域づくりを、地域連携型に移行させるためには、分かりやすく、取り組みやすいテーマから始めて、新しい連携習慣を定着させるのが早道だ。

そこで、地域から声が上がったのが連携の拠点づくり、つまり「連携センター＝まちの駅」構想である。すでに、北東北、西関東、中部地域などの市町村で社会実験が始まった。いずれも県境を越え、官民超えての連携が志向されている。今や、実験から実践の段階に入りつつある。この動きにあわせて、情報化の波に乗って全国各地で市町村の広域情報共有システムがつくられつつあり、地域連携に強い追い風が吹きつつある。

「まちの駅」のお手本に「道の駅」があるが、「まちの駅」は必ずしも幹線道路沿いにある必要はない。山の駅、川の駅、海の駅であってもよい。施設は新たに建設するのではなく、既設の公共施設を活用し、新たな機能を付加すればよい。実験地域では、10 億円前後の施設が十分活用できることが検証されている。欧州ではまちのインフォメーション機能がきれいに網羅されているが、日本でも「まちの駅」に国際的に通用するインフォメーション機能を持たせたいものだ。

「まちの駅」という呼び名は分かりやすいが、これでないといけないということはない。全国的に展開するとして、今後、関係市町村、賛同する個人、企業、民間が加わった横断型の組織づくりを進めたい。

6. 健康の駅「健味健食園」、ただいま震災復興中



益城町は昨年の熊本地震で、4 月 14 日と 16 日の 2 度に渡って震度 7 の激震に襲われました。「ましき会」では、「健味健食園」のほかに益城病院と各種の高齢者福祉施設も運営しています。建物の基礎はしっかりとしていたのですが、活断層の真上に位置していたため、地盤の沈下で大きな段差ができ、建物間の通路もはずれてしまいました。応急工事をして、今は通常営業をしていますが、施設内の各所に被災の跡が残されています。最も被害が大きかった第二外来病棟はその後に解体され、今はロータリー駐車場に整備されました。また、1 月には新たに『社会医療法人ましき会 ひろやすクリニック』がオープンし、パン工房「まりも」も営業再開しています。健康の駅「健味健食園」については、今も再開の目処が立っていません。

街なかも案内していただきましたが、1 年経った現在も町内の壊れた建物のがれき処理は 7 割程度が片付いた状況だそうで、撤去作業が続いていました。益城町役場も痛々しい状態のままで、多くの部署はプレハブで仕事をしています。これから解体・再建の運びとなるそうです。元通りになるまでには、まだまだ時間がかかりそうです。

予告 第 20 回「まちの駅全国大会 in ふくおか」

オール九州・沖縄メンバーが
皆様のお越しをお待ちしています!

開催日：平成 29 年 9 月 29 日（金）～30 日（土）

29 日：まちの駅フォーラムの部（13：00～18：00）　会場：JR 博多シティ　10 階会議室
　基調講演　「目指すべき日本の観光戦略（仮）」　講師：石原 進氏（NHK 経営経営委員長／JR 九州相談役）
　第一分科会「まちの駅の運営研究」
　第二分科会「地域でヒカリ輝くまちの駅（まちの駅初心者講座）」
　第三分科会「国際化に対応したまちの駅をめざして」
29 日：交流会の部（18：30～20：30）　会場：ホテルクリオコート博多
30 日：エクスカーションの部「まちの駅ツアー」（各コース現地集合）
　開催候補地　①福岡・甘木朝倉コース　②福岡・宮若コース　③鹿児島コース　④沖縄コース

新規まちの駅のご紹介　（平成 29 年 1 月から 3 月までの加盟駅）

都道府県	市町村	まちの駅名
茨城県	水戸市	まちの駅みとネットワーク（1 駅）
		・プリントの駅
栃木県	鹿沼市	まちの駅ネットワークかぬま（3 駅）
		・チョコレートの駅
		・オリジナル家具＆セレクト雑貨の駅
		・企業とまちの応援団
兵庫県	豊岡市	・まちの駅　かばんのたなか
広島県	廿日市市	まちの駅ネットワークはつかいち（60 駅）
		・てづくりの宿の駅
		・ビフクの駅
		・つきたて米の駅
		・元祖生かき・あさりの駅
		・お茶の駅　橋口梅香園
		・暮らしのパートナーの駅
		・花香の駅
		・酒・青果・食料品の駅
		・もみじまんじゅう発祥の駅
		・プレミアムトップかき「極鮮王」の駅
		・ムール貝の駅
		・新鮮コーヒー豆の駅
		・ONO
		・かき好きが集まる駅
		・庭園の宿　石亭
		・あなごめし100年の店
		・健康第一の駅
		・こだわりもみじ饅頭の駅
		・安芸の駅
		・手づくりパンの駅
		・人間もペットも OK の駅
		・大野更地の便利の駅
		・美肌の駅
		・体を整える駅
		・うまいが評判の駅
		・海と山が楽しめる駅
		・宮島・弥山へ繋がる駅
		・宮浜温泉　旅の駅　かんざき
		・昔ながらの食料品店の駅
		・真あなごの駅
		・漁業組合の駅
		・寄せ植えとハンギングの駅
		・お母さんのお好み焼
		・フレンドリー中央
		・保険ドクターの駅

都道府県	市町村	まちの駅名
広島県	廿日市市	・近くて便利
		・うまいかい？貝の駅
		・まちの駅すぱあと
		・髪の駅　まつもと
		・住まいのパートナーの駅
		・痛みをとるの駅
		・うまいが評判の工房
		・街の印刷屋さん駅
		・林が原衣料のよしだ駅
		・もみまん通の駅
		・創業 50 年のもみじ饅頭の駅
		・地域特産品の駅
		・あなたにとことん商工会の駅
		・杜の駅
		・こだわり厳選「つゆ」の駅
		・快適住まいとお弁当の駅
		・うどんと山賊焼の駅
		・宮島口　海辺のホテルの駅
		・湯ったり温泉の駅
		・新鮮と地元野菜の惣菜駅
		・39.8 の軽マーケット駅
		・美容の駅
		・カラオケの駅
		・西洋料理の駅
		・事務機器の駅
鹿児島県	鹿児島市	鹿児島まちの駅連絡協議会（4 駅）
		・Ten-Lab の駅
		・天文館まちの駅　ゆめりあ
		・地元に根付く、地域密着型自動車整備工場の駅
	出水市	・出水の企業を支援する駅

編集後記

廿日市市に 60 駅が誕生。今後 100 駅達成を目指すとのこと。とはいえ、最初から頑張りすぎると、途中で息切れすることも起こりがちです。富士市まちの駅に学んだ「**頑張らなくてもいいけどあきらめない**」の精神で、末永いお付き合いを。（は）

全国まちの駅連絡協議会事務局
（NPO 法人地域交流センター内）
東京都千代田区東神田 1-7-10　KI ビル 3F
TEL03-5823-4190／FAX03-5823-4191